



DHCPv6 リレー ソース設定

- [DHCPv6 リレー送信元の設定の制限事項 \(1 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定例 \(4 ページ\)](#)
- [DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報 \(4 ページ\)](#)

DHCPv6 リレー送信元の設定の制限事項

- 設定済みのインターフェイスがシャットダウンされた場合、またはその IPv6 アドレスのすべてが削除された場合、リレーは標準の動作に戻ります。
- IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスを指定しようとすると、コマンドラインインターフェイス (CLI) によってエラーが報告されます。
- インターフェイス コンフィギュレーションとグローバル コンフィギュレーションの両方が設定されている場合、インターフェイス コンフィギュレーションが優先されます。

DHCPv6 リレー送信元の設定に関する情報

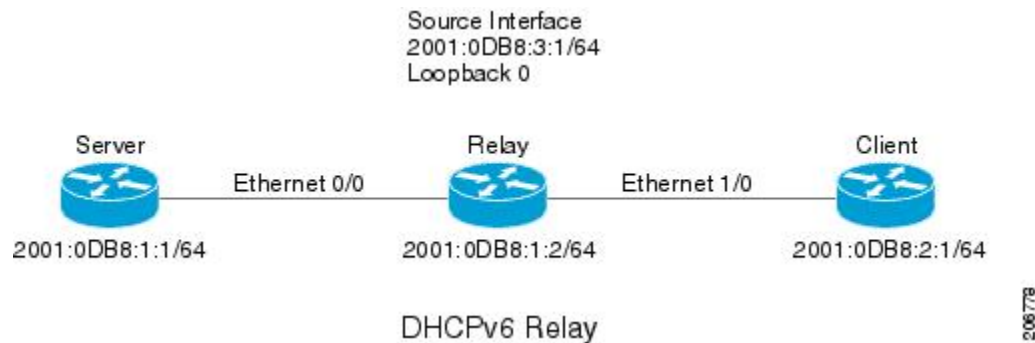
DHCPv6 リレー送信元の設定に関する情報

DHCPv6 サーバーは、応答を中継されたメッセージの送信元アドレスに送信します。通常、DHCPv6 リレーは、メッセージ送信に使用されたサーバー方向インターフェイスのアドレスを送信元として使用します。ただし、一部のネットワークでは、より安定したアドレス（ループバックインターフェイスなど）を設定し、そのインターフェイスを中継されたメッセージの送信元アドレスとしてリレーで使用することが望ましい場合があります。DHCPv6 リレー送信元設定機能には、この機能が用意されています。

次の図に、単一のクライアント、リレー、およびサーバーで構成される簡単なネットワークを示します。リレーとサーバーは 2001:DB8:1::/64 を介して通信し、リレーには 2001:DB8:2::/64

に対するクライアント方向インターフェイスがあります。リレーには、アドレス 2001:DB8:3:1/64 が設定されたループバック インターフェイスもあります。

図 1: DHCPv6 リレー送信元設定 - 簡単なネットワーク



リレーはクライアントから要求を受信すると、クライアント方向インターフェイス（イーサネット 1/0）のアドレスを relay-forward メッセージの link-address フィールドに含めます。このアドレスは、サーバーによってアドレス プールの選択に使用されます。その後、リレーは relay-forward メッセージをサーバーに送信します。デフォルトでは、サーバー方向（イーサネット 0/0） インターフェイスのアドレスが IPv6 送信元として使用され、サーバーはそのアドレスに応答を送信します。

リレーの送信元インターフェイスが明示的に設定されている場合、リレーはそのインターフェイスのプライマリ IPv6 アドレスを、転送するメッセージの IPv6 送信元として使用します。たとえば、ループバック 0 を送信元として設定すると、リレーは、サーバーに中継されるメッセージの IPv6 送信元アドレスとして 2001:DB8:3:1/64 を使用します。

DHCPv6 リレー送信元の設定方法

DHCPv6 リレー送信元の設定

DHCPv6 リレー送信元を設定するには、次の作業を実行します。

インターフェイスに対する DHCPv6 リレー送信元の設定

メッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定するには、次の作業を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface type number 例 : Device(config)# interface loopback 0	インターフェイスのタイプおよび番号を指定し、インターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ipv6 dhcp relay source-interface interface-type interface-number 例 : Device(config-if)# ipv6 dhcp relay source-interface loopback 0	このインターフェイスで受信したメッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定します。
ステップ 5	end 例 : Device(config-if)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

DHCPv6 リレー送信元のグローバルな設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ipv6 dhcp-relay source-interface interface-type interface-number 例 : Device(config)# ipv6 dhcp-relay source-interface loopback 0	メッセージの中継時に送信元として使用するインターフェイスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	end 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに 戻ります。

DHCPv6 リレー送信元の設定例

例：インターフェイスに対する DHCPv6 リレー送信元の設定

次の例で、リレーの送信元として使用するループバック 0 インターフェイスの設定方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface loopback 0
Device(config-if)# ipv6 dhcp relay source-interface loopback 0
Device(config-if)# end
```

DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: DHCPv6 リレー送信元の設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
DHCPv6 リレー ソース設定	Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	DHCPv6を使用する一部のネットワークでは、より安定したアドレス（ループバック インターフェイスなど）を設定し、そのインターフェイスを中継されたメッセージの送信元アドレスとしてリレーで使用することが望ましい場合があります。DHCPv6 リレー送信元設定機能には、この機能が用意されています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。